

定義と診断基準

“全身性エリテマトーデスとは何か？”と問うとまずは返ってくるのはその診断基準である。

“イレウスの定義は？”と問うと決まってイレウスのタイプが返答である。

“それは診断基準、それはタイプ。定義は？”には多くは沈黙する。定義と診断基準を定義せよ。

“全身性エリテマトーデスとは「・・・」である”、の「・・・」が定義。

定義のものをどうやって知るか、の方法を講ずるとしよう。手にとって見たところ、
＜あれこれ＞があったら定義のもの、つまり全身性エリテマトーデスである、とする。このとき
＜あれこれ＞が診断基準である。

さて、定義のものの全部の集合Aを仮想する。＜あれこれ＞のすべての集合BがピッタリAと重なれば（ $A = B$ ）診断基準は完全無欠。現実にはそのような診断基準はない。

$A \supset B$ なら診断基準を満たすものは間違いなく定義のものといってよいが、見落とし、すなわち偽陰性がある。診断基準は特異度が高いが感度に難がある。

$A \subset B$ なら診断基準は見落としはないが、かわりに実は違うものも定義のものとする、すなわち偽陽性がある。こちらは感度はよいが特異度に欠ける。診断基準は方便だから、マニュアルのワンパターン適用は心して注意しなければならない。

日焼けして白血球がすくなく腎炎もあって、このところ発熱した胸水がX線でみられて抗核抗体陽性と診断基準を5個も満たすからといってエリテマトーデスということにはならない。昔から日焼けによわく周期性の白血球減少症があって子供のときから蛋白尿が持続していて、昨今結核性胸膜炎に罹患した、かもしれないではないか。